

7/6(土) まいど! 倫の号です。毎週「易」の日が続き、これにコロナの新型が表れ、戦々恐々とした日々を送っています。企業も同じ挑戦を止めず進んでいきます!

今週の

倫理

7月のテーマ | 易不易の倫理

幸也 城谷 阿一 鳥

2022. 7. 16~7. 22

1290号

世の中には、時代に応じて変わるもの、変えなければならぬものがあります。一方で、いついかなる時でも変わらないもの、変えてはならないものがあります。このことを「易不易の原理」といいます。「易」とは変わるという意味です。経営においても、何が会社にとって変えるべきこと（易）であり、何を変えてはならないこと（不易）なのかをしっかりと見定めなければなりません。

「不燃ボード」を主力商品とする住宅内装材を製造するY社長は、同原理を経営に活かすことにより、危機を乗り越えました。父親が経営する会社に入社したY社長は、当初、営業部門に籍を置きました。ある日、お客様から「まだ、こんな物を売っているのか」と辛らつな言葉を浴びせられ、ショックを受けました。当時の主力商品は、市場に流通している物ばかりで、目新しさはなく、他社との差別化を図ることができていなかったのです。

お客様の言葉に（新しい物を創り出さなければ生き残ってはいけない）と奮い立ったY社長は、社の命運をかけて、新製品開発のため資金と人材を投入したのです。しかし一方で、Y社長は、新製品を開発する上で、決して譲れないこだわりを明確に定めたといいます。

それは「自分たちの仕事は安全かつ快適な空間を提供すること。家が安全であることとは人が住むにあたり何より大切であり、長い年月、そこで過ごすなら快適さも求め



会社の拠り所を知り 幾多の難局を乗り切る

られるということ。その両者を併せ持った製品を提供するのが私たちの使命である」という、先代から受け継がれてきた創業の精神です。

この創業の精神は自社の土台であるから断固として変えない。しかし、商品を開発するにあたっては、大胆に新しいことへも挑戦する。そのように、Y社長自らが陣頭指揮を取り、新商品の開発に着手しました。結果、厚さ三ミリという当時もつと極薄の不燃板の開発に成功したのです。顧客ニーズに見事に応えた新商品の誕生でした。「何のためにわが社はあるのか」という根本的な問いは、会社にとっての拠り所であり、屋台骨となります。そしてそれは、目的や企業理念、社是社訓に表れます。

目的地を定めずして、経路は決まりません。また、目的地を見失えば、道を間違えかねません。経営においても、目的を社員と共有すると共に、方向性を社員に明確に示すことで、社内は一体感を増し、チームとしての力が発揮されるのです。

この度のY社長の体験も、変えてはならないものを明確にしたブレない姿勢と、変えるべきは、恐れず大胆に変える姿勢が、その成功の要因だったと言えるでしょう。

会社経営は時代の変化興亡にさらされ、常に予期せぬ不況に見舞われる危険性をはらんでいます。その時々々の社会の求めに対して、改善・開発を加えながらも、会社にとって、決して変えてはいけないものは何なのかを常に問いかけていきたいものです。